Ⅰ　学校調査

１　幼稚園

[Ⅰ-1-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　550園で、前年度より19園減少している。

・　設置者別では、国立1園(構成比0.2％)、公立215園(同39.1％)、私立334園(同60.7％)で、前年度より公立は15園、私立は4園、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市170園、堺市46園、吹田市31園の順である。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表1・付表-5]

（２）学級数

・　3,254学級で、前年度より77学級減少している。

・　設置者別では、国立6学級(構成比0.2％)、公立575学級(同17.7％)、私立2,673学級(同82.1％)で、前年度より公立は50学級、私立は27学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市950学級、堺市331学級、吹田市227学級の順である。

・　１園当たりの学級数は5.9学級で、前年度と同じである。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-1-1表・統計表1]

（３）在園者数

・　73,822人（男子37,376人、女子36,446人）で、前年度より4,695人減少している。

・　設置者別では、国立145人(構成比0.2％)、公立10,767人(同14.6％)、私立62,910人(同85.2％)で、前年度より国立は1人、公立は1,365人、私立は3,329人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児21,798人(構成比29.5％)、4歳児25,098人(同34.0％)、5歳児26,926人(同36.5％）で、前年度より3歳児は1,117人、4歳児は1,829人、5歳児は1,749人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市21,853人、堺市7,352人、吹田市6,040人の順である。

・　１学級当たりの在園者数は22.7人で、前年度より0.9人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在園者数は11.9人で、前年度より0.7人減少している。

[Ⅰ-1-1表・Ⅰ-1-2表・統計表2・付表-5]

[Ⅰ-1-2表] 　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数

・　22,634人（男子11,520人、女子11,114人）で、前年度より2,431人減少している。

・　設置者別では、国立58人(構成比0.3％)、公立4,451人(同19.7％)、私立18,125人(同80.1％)で、前年度より公立は499人、私立は1,932人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児18,831人(構成比83.2％)、4歳児3,122人(同13.8％)、5歳児681人(同3.0％）で、前年度より3歳児は1,539人、4歳児は944人、それぞれ減少、5歳児は52人増加している。

[Ⅰ-1-2表・Ⅰ-1-3表]

[Ⅰ-1-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



　[Ⅰ-1-1図]　年齢別入園者数の推移 [Ⅰ-1-2図]　公立・私立別入園者数の推移

　　

（５）認可定員及び定員充足率

・　認可定員は122,173人で、前年度より3,943人減少している。

また、設置者別では、国立150人(構成比0.1％)、公立26,741人(同21.9％)、私立95,282人(同78.0％)で、前年度より公立は2,240人、私立は1,703人、それぞれ減少している。

・　定員充足率は60.4％で、前年度より1.9ポイント低下している。

また、設置者別では、国立96.7％、公立40.3％、私立66.0％で、前年度より国立は0.6ポイント、公立は1.6ポイント、私立は2.3ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-1-4表・Ⅰ-1-3図]

[Ⅰ-1-4表] 　　認可定員・在園者数・定員充足率



[Ⅰ-1-3図] 公立・私立別定員充足率の推移



（６）教員数（本務者）

・　6,212人（男性264人、女性5,948人）で、前年度より30人減少している。

・　設置者別では、国立9人（構成比0.1％)、公立1,230人（同19.8％)、私立4,973人

（同80.1％)で、前年度より国立は1人、公立は70人、それぞれ減少、私立は41人増加し

ている。

　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表3]

２　幼保連携型認定こども園

[Ⅰ-2-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　650園で、前年度より36園増加している。

・　設置者別では、公立87園(構成比13.4％)、私立563園(同86.6％)で、前年度より公立は7園、私立は29園、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市128園、大阪市58園、豊中市48園の順である。

[Ⅰ-2-1表･統計表7・付表-5]

（２）学級数（3から5歳児）

・　2,760学級で、前年度より128学級増加している。

・　設置者別では、公立401学級(構成比14.5％)、私立2,359学級(同85.5％)で、前年度より公立は36学級、私立は92学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市455学級、大阪市280学級、東大阪市240学級の順である。

・　1園当たりの学級数は4.2学級で、前年度より0.1学級減少している。

[Ⅰ-2-1表・統計表7]

（３）在園者数

・　92,232人（男子47,249人、女子44,983人）で、前年度より3,429人増加している。

・　設置者別では、公立12,134人(構成比13.2％)、私立80,098人(同86.8％)で、前年度より公立は850人、私立は2,579人、それぞれ増加している。

・　年齢別では、0歳児4,517人（構成比4.9％）、1歳児11,033人（同12.0％）、2歳児12,824人（同13.9％）、3歳児20,795人(同22.5％)、4歳児21,424人(同23.2％)、5歳児21,639人(同23.5％）で、前年度より0歳児61人、1歳児572人、2歳児468人、3歳児440人、4歳児768人、5歳児1,120人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市16,962人、大阪市8,514人、東大阪市7,214人の順である。

・　3から5歳児の１学級当たりの在園者数は23.1人で、前年度より0.3人減少している。

・　教育・保育職員(本務者)１人当たりの在園者数は6.1人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-2-2表] 　　　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数（3から5歳児）

・　11,765人（男子6,025人、女子5,740人）で、前年度より64人減少している。

・　設置者別では、公立2,502人(構成比21.3％)、私立9,263人(同78.7％)で、前年度より公立は406人増加、私立は470人減少している。

・　年齢別では、3歳児8,210人(構成比69.8％)、4歳児2,126人(同18.1％)、5歳児1,429人(同12.1％）で、前年度より3歳児は128人、4歳児は92人、それぞれ減少、5歳児は156人増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-2-2表・Ⅰ-2-3表]

[Ⅰ-2-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



[Ⅰ-2-1図] 年齢別在園者数　　　　　　[Ⅰ-2-2図] 公立・私立別在園者数の推移



（５）認可定員及び定員充足率

・ 認可定員は102,639人で、前年度より4,896人増加している。

また、設置者別では、公立14,403人(構成比14.0％)、私立88,236人(同86.0％)で、前年度より公立は865人、私立は4,031人、それぞれ増加している。

・　定員充足率は89.9％で、前年度より1.0ポイント低下している。

　また、設置者別では、公立84.2％、私立90.8％で、前年度より公立は0.8ポイント増加、私立は1.3ポイント低下している。

[Ⅰ-2-4表･Ⅰ-2-3図]

[Ⅰ-2-4表] 　　認可定員・在園者数・定員充足率



[Ⅰ-2-3図]　公立・私立別定員充足率の推移



（６）教育・保育職員数（本務者）

・　15,235人（男性724人、女性14,511人）で、前年度より813人増加している。

・　設置者別では、公立1,803人（構成比11.8％)、私立13,432人（同88.2％)で、前年度より公立は106人、私立は707人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-2-1表・統計表9]

３　小学校

[Ⅰ-3-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　994校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.3％)、公立974校(同98.0％)、私立17校(同1.7％)で、前年度より公立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市299校、堺市94校、東大阪市49校の順に多く、能勢町・田尻町1校、忠岡町・太子町・河南町・千早赤阪村2校の順に少ない。

[Ⅰ-3-1表・統計表13・付表-5]

（２）学級数

・　19,097学級で、前年度より90学級増加している。

・　設置者別では、国立54学級(構成比0.3％)、公立18,812学級(同98.5％)、私立231学級(同1.2％)で、前年度より公立は87学級、私立は3学級、それぞれ増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級13,672学級(構成比71.6％)、複式学級13学級(同0.1％)、特別支援学級5,412学級(同28.3％)で、前年度より単式学級は113学級減少、複式学級は1学級、特別支援学級は202学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、大阪市5,431学級、堺市1,802学級、豊中市1,004学級の順に多く、能勢町17学級、千早赤阪村18学級、田尻町22学級の順に少ない。

また、前年度より大阪市75学級、吹田市33学級、豊中市26学級の順に増加し、和泉市12学級、枚方市9学級、羽曳野市8学級の順に減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・統計表13・付表-5]

[Ⅰ-3-2表] 　 学級編制方式別学級数・児童数



（３）児童数

・　422,433人（男子215,628人、女子206,805人）で、前年度より5,451人減少している。

・　設置者別では、国立1,854人(構成比0.4％)、公立414,024人(同98.0％)、私立6,555人(同1.6％)で、前年度より国立は1人、公立は5,534人、それぞれ減少、私立は84人増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級392,693人(構成比93.0％)、複式学級81人(同0.0％)、特別支援学級29,659人(同7.0％)で、前年度より単式学級は7,220人、複式学級は5人、それぞれ減少、特別支援学級は1,774人増加している。

・　市町村別では、大阪市118,209人、堺市42,668人、豊中市22,455人の順に多く、千早赤阪村175人、能勢町268人、田尻町451人の順に少ない。

また、前年度より吹田市322人、箕面市91人、大阪狭山市30人の順に増加し、堺市865人、大阪市520人、枚方市495人の順に減少している。

・　１学級当たりの児童数は22.1人で、前年度より0.4人減少している。

　また、市町村別では、熊取町24.6人、大阪狭山市24.2人、和泉市24.0人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの児童数は14.6人で、前年度より0.4人減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・Ⅰ-3-3表・統計表14・付表-5]

[Ⅰ-3-3表] 設置者別・男女別児童数



[Ⅰ-3-4表] 　　　学年別児童数



（４）帰国児童数・外国人児童数

・　帰国児童数は325人で、前年度間より181人減少している。

・　外国人児童数は5,389人で、前年度より427人増加している。

[Ⅰ-3-5表・Ⅰ-3-6表]

[Ⅰ-3-5表] 　 帰国児童数 　 [Ⅰ-3-6表]　　外国人児童数

 

（５）教員数（本務者）

・　28,850人（男性11,038人、女性17,812人）で、前年度より276人増加している。

・　設置者別では、国立81人(構成比0.3％)、公立28,319人(同98.2％)、私立450人(同1.6％)で、前年度より国立は2人、公立は266人、私立は8人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-3-1表・統計表16]

４　中学校

[Ⅰ-4-1表] 　　主要指標の推移

 (注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「学級数」「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

・　517校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.6％)、公立453校(同87.6％)、私立61校(同11.8％)で、前年度より私立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市157校、堺市47校、東大阪市25校の順に多く、能勢町・忠岡町・田尻町・岬町・太子町・河南町・千早赤阪村1校、豊能町2校の順に少ない。

[Ⅰ-4-1表・統計表22・付表-5]

（２）学級数

・　8,277学級で、前年度より148学級増加している。

・　設置者別では、国立33学級(構成比0.4％)、公立7,587学級(同91.7％)、私立657学級(同7.9％)で、前年度より公立は147学級、私立は1学級、それぞれ増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級6,149学級(構成比74.3％)、複式学級1学級（同0.0％）、特別支援学級2,127学級(同25.7％)で、前年度より単式学級は14学級増加、複式学級は同じ、特別支援学級は134学級増加している。

・　市町村別では、大阪市2,369学級、堺市771学級、東大阪市430学級の順に多く、千早赤阪村5学級、能勢町10学級、田尻町・岬町11学級の順に少ない。

また、前年度より大阪市62学級、堺市14学級、枚方市11学級の順に増加し、泉佐野市4学級、四條畷市・熊取町3学級の順に減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・統計表22・付表-5]

[Ⅰ-4-2表]　 学級編制方式別学級数・生徒数



（３）生徒数

・　221,610人（男子113,086人、女子108,524人）で、前年度より1,268人増加している。

・　設置者別では、国立1,187人(構成比0.5％)、公立198,818人(同89.7％)、私立21,605人(同9.7％)で、前年度より国立は1人減少、公立は1,170人、私立は99人、それぞれ増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級210,809人(構成比95.1％)、複式学級7人（同0.0％）、特別支援学級10,794人(同4.9％）で、前年度より単式学級は59人、複式学級は3人、特別支援学級は1,206人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、大阪市61,756人、堺市21,950人、東大阪市11,123人の順に多く、千早赤阪村103人、能勢町181人、田尻町273人の順に少ない。

また、前年度より大阪市953人、豊中市171人、堺市146人の順に増加し、富田林市121人、泉佐野市116人、四條畷市96人の順に減少している。

・　１学級当たりの生徒数は26.8人で、前年度より0.3人減少している。

また、市町村別では、高石市31.2人、交野市29.8人、大阪狭山市29.4人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は12.9人で、前年度より0.2人減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・Ⅰ-4-3表・統計表23・付表-5]

[Ⅰ-4-3表]　 　 　 設置者別・男女別生徒数



[Ⅰ-4-4表] 学年別生徒数



（４）帰国生徒数・外国人生徒数

・　帰国生徒数は160人で、前年度間より27人減少している。

・　外国人生徒数は2,024人で、前年度より11人増加している。

[Ⅰ-4-5表・Ⅰ-4-6表]

[Ⅰ-4-5表]　 帰国生徒数 　　　 [Ⅰ-4-6表]　外国人生徒数

　

　　　　　　　　　 　　　　　　　(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の生徒数は

含めていない。

（５）教員数（本務者）

・　17,118人（男性9,315人、女性7,803人）で、前年度より251人増加している。

・　設置者別では、国立63人(構成比0.4％)、公立15,651人(同91.4％)、私立1,404人(同8.2％)で、前年度より公立は245人、私立は6人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-4-1表・統計表25]

（６）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

生徒数は651人で、前年度より4人増加している。

　[Ⅰ-4-7表]

[Ⅰ-4-7表] 夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数・学級数・生徒数及び教員数（本務者）(公立)



５　義務教育学校

[Ⅰ-5-1表] 　　主要指標の推移



(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

　　7校で、前年度と同じである。　　　　　　　　　　　　 　　　 [Ⅰ-5-1表・統計表31]

（２）児童生徒数

・　4,228人（男子2,145人、女子2,083人）で、前年度より66人増加している。

・　教員（本務者）１人当たりの児童生徒数は11.4人で、前年度と同じである。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-5-1表・Ⅰ-5-2表・統計表32]

[Ⅰ-5-2表]　　　　　　　　　課程別・学年別児童生徒数



（３）教員数（本務者）

371人（男性170人、女性201人）で、前年度より5人増加している。

[Ⅰ-5-1表・統計表34]

（４）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

　　生徒数は138人で、前年度より26人増加している。　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-5-3表]

[Ⅰ-5-3表]夜間その他特別な時間において授業を行う

学校数・学級数・生徒数及び教員数（本務者）(公立)



６　高等学校（全日制・定時制）

[Ⅰ-6-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　254校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％）、公立157校(同61.8％）、私立96校(同37.8％）で、前年度より公立は2校減少している。

・　課程別では、全日制課程のみを置く学校が233校、定時制の課程のみを置く学校が5校、全日制・定時制の両課程を併置している学校が16校である。

・　市町村別では、大阪市90校、堺市24校、東大阪市14校の順である。

[Ⅰ-6-1表・統計表36・付表-5]

（２）学科数

・　319学科で、前年度より6学科減少している。

・　課程別では、全日制課程295学科、定時制課程24学科である。

・　学科分野別では、普通科191学科、専門教育を行う学科として農業科2学科、工業科23学科、商業科12学科、家庭科3学科、看護科3学科、福祉科2学科、その他の学科48学科、総合学科35学科である。　　　　　　　　　　　　　 　 [Ⅰ-6-2表]

[Ⅰ-6-2表] 　　　　課程別学科数



（３）生徒数

・　207,262人（男子103,630人、女子103,632人）で、前年度より6,853人減少している。

・　設置者別では、国立1,307人(構成比0.6％）、公立114,562人(同55.3％）、私立91,393人(同44.1％）で、前年度より国立は23人、公立は6,493人、私立は337人、それぞれ減少している。

・　課程別では、全日制課程204,457人(構成比98.6％)、定時制課程2,805人(同1.4％)で、前年度より全日制課程は6,477人、定時制課程は376人、それぞれ減少している。

・　学科分野別では、普通科154,192人(構成比74.4％)が最も多く、次いでその他20,269人(同9.8％)、総合学科16,531人(同8.0％)、工業科10,064人（同4.9％)、商業科3,473人 (同1.7％）となっている。

・　市町村別では、大阪市72,240人、堺市18,851人、東大阪市11,984人の順に多い。

また、前年度より守口市156人、藤井寺市92人の順に増加し、大阪市2,004人、堺市788人、東大阪市769人の順に減少している。

・　１校当たりの生徒数は816.0人で、前年度より20.4人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は14.5人で、前年度より0.3人減少している。

[Ⅰ-6-1表・Ⅰ-6-3表・Ⅰ-6-4表・統計表38・付表-5]

[Ⅰ-6-3表] 　　設置者別生徒数



[Ⅰ-6-4表] 　　　学科別生徒数



[Ⅰ-6-5表] 　　課程別・学年別生徒数



[Ⅰ-6-1図]　 学科別生徒数



[Ⅰ-6-2図] 学科別生徒数の推移



（４）帰国生徒数・外国人生徒数

・　帰国生徒数は119人で、前年度間より14人増加している。

・　外国人生徒数は1,194人で、前年度より160人減少している。

[Ⅰ-6-6表・Ⅰ-6-7表]

[Ⅰ-6-6表]　　帰国生徒数 　　　　[Ⅰ-6-7表] 外国人生徒数

　

（５）入学状況

・　入学定員は78,596人で、前年度より558人増加している。

また、設置者別では、国立440人（構成比0.6％）、公立39,781人（同50.6％）、私立38,375人（同48.8％）で、前年度より公立は2,581人減少、私立は3139人増加している。

・　入学志願者は114,687人で、前年度より8,164人減少している。

また、設置者別では、国立478人（構成比0.4％）、公立42,402人（同37.0％）、私立71,807人（同62.6％）で、前年度より国立は68人、公立は4,152人、私立は3,944人、それぞれ減少している。

・　入学者は68,236人で、前年度より3,342人減少している。

また、設置者別では、国立428人（構成比0.6％）、公立36,457人（同53.4％）、私立31,351人（同45.9％）で、前年度より国立は19人、公立は3,425人、それぞれ減少、私立は102人増加している。

[Ⅰ-6-8表・統計表41]

[Ⅰ-6-8表] 入学状況



（６）教員数（本務者）

・　14,299人（男性9,397人、女性4,902人）で、前年度より152人減少している。

・　設置者別では、国立83人(構成比0.6％)、公立8,847人(同61.9％)、私立5,369人(同37.5％)で、前年度より国立は1人、公立は227人、それぞれ減少、私立は76人増加している。

・　課程別では、全日制課程13,735人(構成比96.1％）、定時制課程564人(同3.9％）で、前年度より全日制課程は153人減少、定時制課程は1人増加している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-6-1表・統計表42]

７　高等学校（通信制）

[Ⅰ-7-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　13校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、公立1校(構成比7.7％)、私立12校(同92.3％)である。

・　独立校（通信制課程のみの学校)は、私立11校である。

[Ⅰ-7-1表]

（２）生徒数

・　16,404人（男子8,613人、女子7,791人）で、前年度より744人減少している。

・　設置者別では、公立1,829人(構成比11.1％)、私立14,575人(同88.9％)である。

[Ⅰ-7-1表・統計表49]

（３）教員数（本務者）

・　322人（男性193人、女性129人）で、前年度より4人減少している。

・　設置者別では、公立46人(構成比14.3％)、私立276人(同85.7％)である。

[Ⅰ-7-1表]

８　中等教育学校

[Ⅰ-8-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校で、前年度と同じである。

[Ⅰ-8-1表]

（２）生徒数

・　140人（男子100人、女子40人）で、前年度より98人減少している。

・　課程別では、前期課程は33人で前年度より50人減少、後期課程は107人で前年度より48人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は7.4人で、前年度より2.1人減少している。

[Ⅰ-8-1表・Ⅰ-8-2表]

[Ⅰ-8-2表] 　　 　課程別・学年別生徒数



（３）教員数（本務者）

19人（男性13人、女性6人）で、前年度より6人減少している。

[Ⅰ-8-1表]

９　特別支援学校

[Ⅰ-9-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　50校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、国立1校、公立49校（府立46校、市立3校）で、前年度と同じである。

[Ⅰ-9-1表・統計表50]

（２）在学者数

・　9,698人（男子6,400人、女子3,298人）で、前年度より145人増加している。

・　設置者別では、国立56人(構成比0.6％)、公立9,642人（同99.4％）（府立9,278人(同95.7％)、市立364人(同3.8％)）である。

・　部別では、幼稚部90人(構成比0.9％)、小学部2,949人(同30.4％)、中学部2,585人(同26.7％)、高等部4,074人(同42.0％)である。

・　１学級当たりの在学者数は4.1人で、前年度より0.1人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの在学者数は1.8人で、前年度と同じである。

　[Ⅰ-9-1表・Ⅰ-9-2表・統計表51]

[Ⅰ-9-2表] 　　部別・男女別在学者数



（３）教員数（本務者）

・　5,410人（男性2,235人、女性3,175人）で、前年度より4人減少している。

・　設置者別では、国立31人(構成比0.6％)、公立5,379人（同99.4％）（府立5,177人(同95.7％)、市立202人(同3.7％)）である。 　　　[Ⅰ-9-1表・統計表53]

１０　専修学校

[Ⅰ-10-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　222校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.5％)、公立1校(同0.5％)、私立220校(同99.1％)で、前年度より私立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市164校、堺市16校、東大阪市5校の順に多く、全体の73.9％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

（２）学科数

・　898学科で、前年度より66学科減少している。

・　設置者別では、国立1学科（構成比0.1％)、公立1学科（同0.1％)、私立896学科(同99.8％)で、前年度より私立は66学科減少している。　　　　　　　　 [統計表54]

（３）生徒数

・　74,531人（男子32,336人、女子42,195人）で、前年度より65人減少している。

・　設置者別では、国立34人(構成比0.0％)、公立58人(同0.1％)、私立74,439人(同99.9％）で、前年度より国立は2人、公立は13人、私立は50人、それぞれ減少している。

・　課程別では、高等課程4,592人(構成比6.2％)、専門課程69,779人(同93.6％)、一般課程160人(同0.2％)で、前年度より高等課程は215人減少、専門課程は270人増加、一般課程は120人減少している。

・　分野別では、文化・教養関係21,530人(構成比28.9％)が最も多く、次いで医療関係18,113人(同24.3％)、工業関係11,853人(同15.9％)となっている。文化・教養関係の中ではその他6,001人、医療関係の中では看護6,867人、工業関係の中では情報処理5,095人が、それぞれ最も多い。

・　１校当たりの生徒数は335.7人で、前年度より2.7人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は19.3人で、前年度と同じである。

　[Ⅰ-10-1表・Ⅰ-10-3表・Ⅰ-10-4表・Ⅰ-10-1図・I-10-2図・統計表54・55]

[Ⅰ-10-2表]　 　類型別学校数



[Ⅰ-10-3表] 　　課程別生徒数



[Ⅰ-10-4表] 　　分野別生徒数



[Ⅰ-10-1図] 　分野別生徒数の推移



[Ⅰ-10-2図] 　　　　学科別生徒数の割合



（４）入学者数

・　令和３年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は33,432人（男子14,289人、女子19,143人）で、前年度より1,632人減少している。

・　設置者別では、国立17人（構成比0.1％)、公立29人（同0.1％)、私立33,386人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,602人(構成比4.8％)、専門課程31,682人(同94.8％)、一般課程148人(同0.4％)で、前年度より高等課程は161人、専門課程は1373人、一般課程は98人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-10-5表・統計表55]

[Ⅰ-10-5表]　課程別入学者数



（５）卒業者数

・　令和２年４月１日から令和３年３月31日までの１年間の卒業者数は29,240人（男子12,422人、女子16,818人）で、前年度間より100人減少している。

・　設置者別では、国立15人（構成比0.1％)、公立37人（同0.1％)、私立29,188人（同99.8％)である。

・　課程別では、高等課程1,567人(構成比5.4％)、専門課程27,402人(同93.7％)、一般課程271人(同0.9％)で、前年度間より高等課程は59人増加、専門課程は53人、一般課程は106人、それぞれ減少している。

・　卒業者のうち関係分野に就職した者は17,883人で、卒業者数全体の61.2％を占めている。また、課程別では、高等課程395人(同課程卒業者の25.2％)、専門課程17,477人(同63.8％)、一般課程11人（同4.1％）である。

[Ⅰ-10-6表・統計表55]

[Ⅰ-10-6表] 課程別卒業者数



（６）教員数（本務者）

・　教員数(本務者)は3,853人（男性1,925人、女性1,928人）で、前年度より20人減少している。

・　設置者別では、国立3人(構成比0.1％)、公立5人(同0.1％)、私立3,845人(同99.8％)で、前年度より公立は1人増加、私立は21人減少している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

１１　各種学校

[Ⅰ-11-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　38校で、前年度より2校減少している。

・ 市町村別では、大阪市25校、東大阪市5校、堺市2校の順に多く、全体の65.8％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-11-1表・統計表56]

（２）課程数

71課程で、前年度より3課程減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　[統計表56]

（３）生徒数

・　8,386人（男子4,855人、女子3,531人）で、前年度より120人減少している。

・　修業年限別では、1年未満の課程919人（構成比11.0％）、1年以上の課程7,467人（同89.0％)である。

・　分野別では、その他7,102人(構成比84.7％)が最も多く、次いで文化・教養関係638人(同7.6％)、商業実務関係304人(同3.6％）となっている。その他の中では、予備校4,258人、外国人学校1,958人、自動車操縦886人の順に多い。

・　１校当たりの生徒数は220.7人で、前年度より8.0人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は19.0人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-11-1表・I-11-2表・I-11-3表・Ⅰ-11-1図・統計表57]

[Ⅰ-11-2表] 　　　　 分野別生徒数



[Ⅰ-11-1図] 　　分野別生徒数の推移



（４）入学者数

・　令和３年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は5,659人（男子3,497人、女子2,162人）で、前年度より558人増加している。

・　課程別では、その他4,924人が最も多い。その中では予備校4,258人が最も多く、入学者数の75.2％を占めている。

　　　　　 　　 [I-11-4表・統計表57]

|  |  |
| --- | --- |
| [Ⅰ-11-3表]  修業年限別生徒数 | [Ⅰ-11-4表]  生徒数・入学者数・卒業者数 |

（５）卒業者数

・　令和２年４月１日から令和３年３月31日までの１年間の卒業者数は7,724人（男子4,860人、女子2,864人）で、前年度間より1488人減少している。

・　課程別では、その他6,814人が最も多い。その中では予備校4,249人が最も多く、卒業者数の55.0％を占めている。

[統計表57]

（６）教員数

教員数(本務者)は442人（男性232人、女性210人）で、前年度より3人減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　 [I-11-1表・統計表56]